



を飲んでもらうことだけでは
ありません。

今回の研究では、この地域の茶園景観の素晴らしさを再認識してもらうと同時に、その活かし方を皆さんとともに考えていきたいと思っています。

今回の研究では、この地域の茶園景観の素晴らしさを再認識してもらうと同時に、その活かし方を皆さんとともに考えていきたいと思っています。

戦略課題研究「大井川」研究の紹介を3回シリーズでお送りしました。皆さんの周りに広がる風景も、視点を少し変えるだけで『川根地域だけの景観』に見えてくるのではないのでしょうか。8月26日に山村開発センターで「大井川」研究を手がける研究者と地域再発見のための催しを行います。（下参照）

「もう少し詳しく話を聞いてみたい」「もっと良いところを知っている」など、興味をお持ちの方は、どうぞお誘いあわせのうえご参加ください。

地域景観 再発見!! 参加者募集!

～研究者と一緒に川根地域の宝物を探ってみませんか～

日時：8月26日(日) 午後1時30分～4時30分 **場所：**山村開発センター 2階会議室

対象：川根町・川根本町に在住または在勤の方(50人程度)

第1部：研究者の目で見えた大井川中流域（川根地域）の魅力（約50分）

～大井川中流域の研究に取り組んでいる研究者が、外の目から見た地域の魅力を紹介～

- 講師 京都府立大学人間環境学部准教授 深町加津枝さん
- 講師 社団法人静岡県建築士会 副代表 塩見寛さん
- 講師 静岡県農林技術研究所茶業研究センター 主任研究員 鈴木利和さん

第2部：3つのテーマに分かれて地域自慢、再発見!（約90分）

～思っていること、話してみよう! 聞いてみよう!～

- テーマ1「森・里・川」
 - テーマ2「集落」
 - テーマ3「お茶」
- ※希望のテーマに参加してください。ただし、参加人数を制限する場合があります。

第3部：全体報告・意見交換会（約40分）

～みんなの意見を合わせてみよう! 新しいことが見えてくるかも～

申込み、問い合わせ：

ファックス、ハガキまたは、電話で住所、氏名、自宅電話番号と希望テーマをお知らせのうえ、お申込みください。（参加無料）

応募締め切り：8月15日（水）（必着）

応募先：〒428-0313 川根本町上長尾627 川根本町役場 企画環境課

電話：0547（56）2221 FAX：0547（56）2235

主催 川根町、川根本町、静岡県研究調整室

静岡県では“地域が誇れる景観”をつくるためにモデル研究として戦略課題研究「大井川」を行なっています。研究は、川根町、川根本町を対象地域に、平成18年、19年の2年間かけて、両町の持つ素晴らしさを再発見し、これからの地域づくりに活かすための提案を目指して、4つの研究機関が実施しています。景観をつくるのは、そこに住んでいる地域の皆さんです。この機会に、専門家に地域の良さをぜひ伝えてください。そして、さらに身近すぎて気がつかなかった地域の素晴らしさを再確認していただけたらと考えます。

静岡県産業部研究調整室

〈3回シリーズ〉 静岡県戦略課題研究レポート

大井川流域の景観を考える

今回の筆者 静岡県農林技術研究所茶業研究センター 鈴木利和さん

NO3

川根らしい茶園景観とは…

～その良さと活かし方を考える～

茶業研究センターは、茶の生産振興を目的として、様々な技術開発に取り組んでいます。今回の研究テーマである「景観」に関する研究については、茶業研究機関でもほとんど実績がなく、未知の分野です。それは、逆の見方をすれば、優れた茶園景観を茶の付加価値や産地評価の向上にどのように結びつけていくかについて、まだまだ研究の余地が残っているということです。

景観保全への取り組みを行っても、即、川根茶の販売額の増加に結びつくわけではありません。しかし、川根路の美しい茶園景観を見ながら、おいしい空気の下で川根茶を飲んでもらうことで、次第に川根茶のファンを増やしていくことが最終的に川根茶業と産地の

存続につながっていくと考えます。

今回の研究は、川根らしい茶園景観とは何か、その特徴を把握するとともに、地元住民と地域外からの来訪者の茶園景観に対する意識の違いを明らかにするこ



車窓から見える茶園景観（川根本町地名）

とにより、地域茶業の活性化につながっていくことを目標としています。

昨年度から行っている研究結果から、若干の成果を報告します。

◆車窓から見える川根の茶園景観の特徴

川根地域の茶園景観の特徴を把握するため以下のような調査を行いました。

まず、島田市と川根町の境界を始点（0 km地点）として河川沿いの県道を上流に向かって北上し、1 kmごと寸又峡まで、デジタルカメラで周辺風景を撮影しました。次に、画像を印刷し、写真に占める茶園の面積割合を算出しました。

この結果、車窓から見える景観の中に茶園が占める割合は、他の山間茶産地と比較して高いことが明らかになりました。そして、大井川沿岸の茶園景観の特徴として以下のような点があげられました。

○大井川沿いには地形に沿った緩やかな斜面に広がる茶園が多い。

○対岸の茶園も遠景に含まれ、連続性がある。

○一部で耕作放棄茶園が見られ、市街地では住宅と茶園が混在している。



市街地近郊の茶園景観（川根町抜里）

このような景観が成立した理由としては、川幅が広く両岸の台地や山があまり急峻でないこと、狭い範囲に茶産地が連続的に立地し、河川の蛇行が激しいこと、古くから茶業が重要な産業として発達し住宅と茶園が一体となっていること、茶業従事者の減少や宅地化が進展していることなどが考えられました。

以上の調査から感じたことは、大井川中流域の茶園景観は静岡県内でも他に類を見ないものであり、これは地域の財産であるということです。川根を訪れた方々に、「お茶」でおもてなしする方法は、美味しいお茶